

平成 23 年 4 月 28 日

各 位

上場会社名 株式会社プラザクリエイト 代表者 代表取締役社長 大島 康広

(コード番号 7502)

問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 黒松 達

(TEL 03-3222-3265)

業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月14日に公表した平成23年3月期(平成22年4月1日~平成23年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

	売 上 高	営業利益	経 常 利 益	当期純利益	1株当たり当期純 利益			
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭			
前回予想(A)	20, 000	350	500	400	88. 33			
今回修正(B)	18, 700	△200	15	△160	△37. 79			
増減額(B-A)	△1,300	△550	△485	△560				
増 減 率 (%)	△6.5	_	△97. 0	_				
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 3 月期)	20, 661	301	498	347	74. 35			

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

	売 上 高	営業利益	経 常 利 益	当期純利益	1株当たり当期純 利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想(A)	8, 500	350	500	450	99. 38
今回修正(B)	9, 800	300	515	245	57. 86
増減額(B-A)	1, 300	△50	15	△205	
増 減 率 (%)	15. 2	△14. 2	3.0	△45. 5	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	8, 969	327	601	537	114. 99

1. 連結業績見通し修正の理由

平成23年3月期の連結業績の見通しは、上期における天候不順や個人消費の低迷の影響により売上高が減少しておりましたので、第3四半期年賀状印刷の拡販に引続き本年3月スタートのフォトブックネット受注やデジカメプリントのプロモーションにより3月の需要期に重点キャンペーンを展開し、目標をキャッチアップする計画としておりました。

しかしながら、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、本重点キャンペーンを中止することとなりました。この震災において、子会社㈱プラザクリエイトイメージングの東北地方の店舗75店舗中41店舗が営業不能となり、東北地方の既存店舗売上が前年対比約40%強の実績となりました。さらに、国内総店舗のうち約半数(約400店舗)を占める当社最大のマーケットである首都圏においても、電力不足による計画停電の実施の影響や自粛ムードの広がりから個人消費が低迷し、既存店舗売上が前年対比約70%の実績となりました。全国的にも、消費マインドが大きく低下し個人消費が急速に落ち込んだ結果、3月単月の既存店全店の店舗売上も前年対比約77%の実績と過去最低の水準となりました。また、DPE店舗の将来性を見極め、当初の計画ピッチを上げて約200店舗の閉店を行った結果、売上高が減少いたしました。さらに、子会社である㈱プラザハートにおいては、3月は年間を通し挙式の件数が多い月ではありますが、震災の影響で挙式の延期・キャンセル等で合計41件発生し、特に披露宴や大人数の挙式の延期、キャンセルが目立ったことにより、売上・利益が大きく落ち込みました。以上の要因により、通期の売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におきまして、大きく予想を下回る見通しとなりました。

2. 単体業績見通し修正と特別損失の発生の理由

平成23年3月期の単体業績の見通しにつきましては、売上高は、子会社㈱プラザクリエイトモバイリングの携帯通信事業者との一次代理店機能を10月に当社に移管したことに伴い、約2100百万円の売上が加わったことにより増加いたしました。また、当期純利益については、子会社㈱プラザクリエイトイメージングにおいて震災の影響を考慮し投資評価の見直しを行った結果、関係会社株式評価損失64百万円、貸倒引当金繰入150百万円の特別損失214百万円を計上する見通しとなったことから、当期純利益の業績見通しを修正するものです。

【業績予想に関する留意事項】

本資料に記載されている業績見通し等に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります

以上